

26. 揮散型薬剤 3 種によるトコジラミに対する殺虫効力の評価

○ 橋本 知幸〈日本環境衛生センター〉・伊東由里絵〈アベックス産業〉

一般家庭で実施可能なトコジラミ防除法を検討するために、市販の揮散型薬剤を用いて、トコジラミに対する殺虫効力を評価した。容積 38.8L の段ボール箱に、衣服に見立てた脱脂綿を積み重ねて入れ、その下部、内部、上部の計 5 カ所に、トコジラミ（ピレスロイド感受性系統）の入った網かごを設置した。供試薬剤は①p-ジクロロベンゼン（10g/箱）、②エンペントリン揮散剤（標準量=512mm²/箱）、③ジクロロボス樹脂蒸散剤（標準量=103mm²/箱）とし、箱の隙間を塞いだ後、箱内天井面に設置した。感受性比較のために、チャバネゴキブリ（感受性系統）の入った容器も脱脂綿上部 3 カ所に置き、1 および 2 日後に致死状況を観察した。その結果、p-ジクロロベンゼンとジクロロボス剤では、トコジラミは設置場所に関係なく、2 日後までにほぼ 100% の致死率が得られたが、エンペントリンでは 13.3% の致死率に留まった。なお、併置したチャバネゴキブリも、p-ジクロロベンゼンとジクロロボス剤で 3 日後までに、それぞれ、95.6%、100% の致死率が得られたが、エンペントリン剤では 0 % であった。